

## 「未来への提言～西高生の主張～」

兵庫県立姫路西高等学校 校長 尾崎 文雄  
教諭 松浦 弘幹

### 1. はじめに

本校では、これまで「総合的な学習の時間」における実践の一環として、「ことばの力」を養うために、「未来への提言～西高生の主張～」という取り組みを続けてきた。この取り組みを通して、生徒自身が社会とのつながりを考慮に入れ、自分の考えについて説得力を持って他人に伝えることができる主体に育ててほしいと考えている。対象生徒は1、2年生であるが、平成27年度では2年生で新たにディベートに取り組み、生徒のさらなる発信力の向上を目指した。

### 2. 実践の概要

「未来への提言」では、教師は次のねらいを共通認識として持ち、実践を進めている。

「我々の生きている社会にはどのような問題が存在しているのかということに関心を持ち、その問題に対してより深く知ろうとする態度を養う。その上で解決に向けて共に生きる人々と考え、話し合う経験を通し、自分の意見を持てるようにする。さらに、それを取り巻く人々にいかにすればよく伝えることができるかを考える」

このねらいに基づいて、目標を次の3点に定めた。

- ①あるテーマについて、自分で調査研究し、自分の意見を文章や発言で表現することにより、学習における探究的な態度を身に付ける
- ②自分の考えていることを伝える手段として文章を書き、また他者の立場に立った上での説得力や表現力を養う
- ③多様な考えを受け入れることで、自分の学びを振り返り、今後の学習方針を探る

### 3. 新聞の置き場所と整理方法

本校では図書室利用者が非常に多いため、新聞の置き場所は図書室内の入り口正面に設置した。

その結果、「未来への提言」に取り組む1、2年生だけでなく、3年生の多くも新聞を手にしていった。整理は図書室担当教諭が行い、倉庫に保管した。



#### 4. 実践の内容

ここでは本年度から取り組んだ2年生でのディベートを中心に報告したい。

##### ①授業での取り組み

各クラスでそれぞれ4～5人編成のグループを8チーム作り、トーナメントを2回実施した。

[学習計画]

時間	内 容
日 常	・ 論題の肯定側、否定側の論拠となるものを、新聞記事を中心に収集
5	〔第1回トーナメント〕 《論題》「動物園は必要である」 ・ 肯定・否定両方についての議論を、ワークシートを用いながら作成 ・ チームによる戦略会議、3回対戦
日 常	・ 論題の肯定側、否定側の論拠となるものを、新聞記事を中心に収集
5	〔第2回トーナメント〕 《論題》「日本は自衛隊の参加制限を緩和し、国際連合の平和維持活動に積極的に貢献すべきである」 ・ 第1回の成績に基づいて対戦相手を設定し、他クラスのチームと対戦 ・ 肯定・否定両方についての議論を、ワークシートを用いながら作成 ・ チームによる戦略会議、3回対戦
1	・ 上位2グループの優勝チーム同士による決勝戦 ・ 他生徒は観戦、ジャッジ

合計 11 時間

[ディベートの流れ]

- 肯定側立論
- 作戦タイム→否定側質問・応答
- 否定側立論
- 作戦タイム→肯定側質問・応答
- 作戦タイム→否定側反駁・肯定側反駁
- 作戦タイム→否定側結論・肯定側結論
- 判定

[ディベート立論で重要なこと]

- ①大事なことから先に述べる
- ②ナンバリング  
「全体の量」「それぞれの位置」「まとめ」
- ③ラベリング  
○言いたいことは10文字で  
○説明は全体から部分へ
- ④〈主張〉＋〈根拠〉＋〈証拠〉  
○〈証拠〉－「客観的データ」「事実」「専門家の意見」
- ⑤準備なくして、対戦なし。準備が全体の7割である

以上の内容を踏まえて、生徒たちには事前準備や論拠となる情報収集の重要性を特に強調して指導した。例えば〈反駁〉は、その場で考えるのではなく、考えておくものであるといったことを意識させ、対戦に向けて中途半端な取り組みをしないよう心掛けさせた。

生徒たちは1年生において興味ある新聞記事の収集、意見文作成を行っており、その流れに沿って、引き続き新聞記事を中心とした資料収集、論拠となる材料収集を行った。



ディベートは自己の意見を固めるだけでなく、他者の意見、別の視点からの考えについても事前に考察しておかなければならない。そのためにはインターネットだけではなく、書籍や新聞記事の活用がより有効であることを指導し、実践を進めた。

本校では、常日頃から知識を蓄積し、広げ、深化していく意識を持つよう、1年次から「S K (stock of knowledge) ノート」を持たせている。S K ノートには関心ある新聞記事の切り抜きを貼り、感想を書く。そのノートを2年次にも活用し、前表「日常」項の積極的な学習活動を促し、かつディベートにおける主張が説得性を持つように心掛けさせた。

## ②授業の様子

2回のトーナメントを実施し、上位2チームによる決勝戦を年度末に行った。そこで展開された肯定側、否定側の立論や質問、反駁において、新聞記事を基にした発言が多く見られた。以下その内容を抜粋する。

〈肯定立論から〉

「自衛隊の平和維持活動について、毎日新聞では「大いに評価」が 32%、「ある程



度評価」が 55.4%であり、国民の多くに評価されている」

〈否定質問から〉

「その資料にある毎日新聞のアンケートはいつのものか。現在の平和維持活動問題に対する評価であるのか」

〈否定立論から〉

「産経新聞によると、日本の安定を図るために重要なこととして『自衛隊の増強』を挙げたのはわずか 7.7%であった」

〈肯定質問への応答から〉

「平和維持活動への派遣による自殺者が多いと言うが、その根拠はあるのか」

→「朝日新聞によると、平和維持活動による PTSD が原因だとされている」

このように、生徒たちはより確かな論拠について新聞記事を基に作り上げ、その論拠を基にディベートを進めていった。その中で、データの出所について、それが新聞であるということ、また着実な取材に基づいた記事であることという点において、信頼性を得やすいソースであるという社会における新聞記事の持つ意味を改めて考え、実感したようである。

### ③アンケートの結果

事後アンケートでは、「未来への提言」が将来の自分にとって有意義、またはおおむね有意義と思った生徒の割合は 87%であった。またディベートを取り入れた学習に対する好意的な評価も 82%に上った。これは例年よりも高い数字である。

以下、生徒の主な感想を示しておく。

- ・ディベートを繰り返してきて感じたことは、自分の意見を相手に分かりやすく明確に伝えることの大切さです。私は話を相手にしっかりと伝えるのが苦手であるため、とても大変でした。そこで改めて感じたのが語彙力、知識を増やすということです。そのためには本を読み、ニュースをよく見て世界を知るという行為が必要となります。
- ・今回の学習では、自分の意見だけでなく他人のあらゆる意見を聞くことで論理的思考力や相手の考え方を批判的に捉える力が身に付きました。実際、このような機会がなかった頃は新聞などもめったに読むことがありませんでした。しかし、今回のディベートの機会を通して新聞やニュースなどに対して興味を示すようになり、友達とも意見を交わすようになりました。
- ・新聞から調べたグラフを用いながら意見を出しているチームがあって、とても参考になりました。
- ・情報を集めても、それをどうやって主張につなげるのが難しかったです。また相手から予想もしない反論があったりして、そういう視点もあるのだと、自分の狭い見方

を広げることができたように思います。平和維持活動の話題は自分が無知であるがために、薄っぺらな議論しかできなかつたので、インターネットだけでなく、書籍や新聞からの深い理解が必要だと感じました。

- ・このディベートを通して自分の主観的な意見で議論をするのではなく、根拠に従って論理的に議論することの大切さを実感した。人を納得させるには下調べがとても重要で、資料を集める力もついたと思う。
- ・今までもディベートの形を経験することはあったが、自分で一から根拠や証拠を見つけてきたり、その場で相手の意見に反駁したりするのは初めてで、とても大変だった。それでも自分の意見を主張したり、相手の意見を批判的に見たりする力が養えたことは、とても将来に役立ちそうだ。

### 5. 実践の感想・今後の取り組み

1年生で新聞記事を切り抜き、討論、意見文を作成し、2年生でディベートを行って、新聞をさらに広く、深く読み、批判力、表現力を身に付けさせるという一つの流れが出来上がってきたように思う。

生徒はやはり手間のかかる作業を敬遠する傾向にある。だからこそ、地道に新聞を広げ、さまざまな記事に目を通し、興味関心を掘り起こすことを求める学習活動は必要であろう。ほとんどの生徒が最後には取り組みを有意義なものとして捉えているアンケート結果も踏まえて、さらにより良い内容を考えていきたい。